

ソーシャル・イノベーションが 拓く未来

10月18日[日] 13:00-16:30

参加
無料

大阪大学豊中キャンパス
基礎工学 国際棟 シグマホール

基調講演

Ms. Kim Meredith
(Executive Director, Stanford PACS) *同時通訳あり

パネルディスカッション

第1部「日本におけるソーシャル・イノベーションの歴史と現状」

- **モデレーター:**
井上 英之氏
(慶應義塾大学 特別招聘准教授/
INNO-Lab International 共同代表)
- **パネリスト:**
鶴尾 雅隆氏
(日本ファンドレイジング協会 代表理事)
佐々木 健介氏
(NPO法人ETIC インキュベーション事業部 マネージャー)
工藤 七子氏
(日本財団 ソーシャルイノベーション本部 社会的投資推進室)
西村 勇哉氏
(NPO法人ミラツク代表理事)

第2部「ソーシャル・イノベーションプレイヤーの紹介と今後の展望」

- **モデレーター:**
星野 俊也氏
(大阪大学理事・副学長)
- **パネリスト:**
奥田 晴久氏
(パナソニック株式会社ブランドコミュニケーション本部)
松島 由佳氏
(クロスフィールズ共同創業者・副代表)
中村 俊裕氏
(コペルニク共同創始者兼CEO、大阪大学国際公共政策研究科招へい准教授)

※Ms. Meredith, Ms. Shannon Thompson(Publishing and Marketing Director, SSIR)には
パネルディスカッションの際もコメントをいただきます

※シンポジウム終了後、登壇者を交えたレセプションを開催致します。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inamori/news.html>

シンポジウム「ソーシャル・イノベーションが拓く未来」

このたび、大阪大学国際公共政策研究科稲盛財団寄附講座は、スタンフォード大学の「フィランソロピーと市民社会センター」(Stanford Center on Philanthropy and Civil Society: PACS)との共催で、「ソーシャル・イノベーションが拓く未来」と題したシンポジウムを開催する運びとなりました。近年、既存の制度や分野の変革、融合を促しながら様々な社会的課題を解決することを目的とする「ソーシャル・イノベーション」が注目されています。民間、政府、非営利団体、大学など各セクターがそれぞれの特性を活かしつつ、協働によって新たな社会的価値を創造し、医療、環境、教育、貧困削減など様々な社会的課題の解決を図ることは、世界及び日本の将来を考える上で重要な命題となっています。「社会と知の統合」は大学に求められている重要な役割であり、大阪大学において、公益財団法人稲盛財団からのご寄附を受けて国際公共政策研究科の研究教育活動の一環として2012年4月より「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション」をテーマとした寄附講座を開設したのも、社会変革を導き、よりよい未来を構築するリーダーを養成することが主眼となっています。

本シンポジウムでは、2003年の発刊以来、ソーシャル・イノベーションの学術的發展や理論と実践の融合を牽引し、「ソーシャル・イノベーションの教科書」とも言える「スタンフォード・ソーシャル・イノベーション・レビュー」(Stanford Social Innovation Review)の出版元であるPACSのキム・メレディス所長を招へいし、ソーシャル・イノベーションの歴史的展開と将来の展望及び米国などでの実践例について語っていただくとともに、日本においてソーシャル・イノベーションを醸成するエコシステムの発展に尽力されている専門家や各分野で先進的な取り組みをされている実践家の方を交えたパネルディスカッションを行います。

ソーシャル・イノベーションに関心をお持ちの実践家、研究者、政府・自治体関係者、学生の皆様の参加をお待ちしております。

プログラム

(予定・敬称略)

13:00-13:10 冒頭挨拶 星野 俊也

13:10-14:10 基調講演 Kim Meredith (Executive Director, Stanford PACS) *同時通訳あり

14:10-14:25 休憩

14:25-16:30 パネルディスカッション

第1部「日本におけるソーシャル・イノベーションの歴史と現状」

モデレーター: 井上 英之 (慶應義塾大学 特別招聘准教授/INNO-Lab International 共同代表)

パネリスト: 鶴尾 雅隆 (日本ファンドレイジング協会 代表理事)

佐々木 健介 (NPO法人ETIC インキュベーション事業部 マネージャー)

工藤 七子 (日本財団 ソーシャルイノベーション本部 社会的投資推進室)

西村 勇哉 (NPO法人ミラツク代表理事)

第2部「ソーシャル・イノベーションプレイヤーの紹介と今後の展望」

モデレーター: 星野 俊也 (大阪大学理事・副学長)

パネリスト: 奥田 晴久 (パナソニック株式会社ブランドコミュニケーション本部)

松島 由佳 (クロスフィールズ共同創業者・副代表)

中村 俊裕 (コペルニク共同創始者兼CEO、大阪大学国際公共政策研究科招へい准教授)

※Ms. Meredith, Ms. Shannon Thompson (Publishing and Marketing Director, SSIR)には
パネルディスカッションの際もコメントをいただきます

17:00-18:00 レセプション

講演者



Kim Meredith

(Executive Director, Stanford PACS)

As the inaugural Executive Director of the Stanford Center on Philanthropy and Civil Society (Stanford PACS), Kim Meredith has been responsible for strategic leadership, strong financial performance and consistent organizational growth, including scaling the Stanford PACS budget eight times in five years through expansion of research and programmatic initiatives. Ms. Meredith joined in July 2009, one year later led the team to acquire the Stanford Social Innovation Review (SSIR), and thereafter opened Stanford PACS at the Stanford Center at Peking University. Ms. Meredith brings dynamic and innovative leadership to implement the mission of Stanford PACS and SSIR.

Prior to joining Stanford PACS, Ms. Meredith served as the Chief Development Officer for Planned Parenthood Federation of America in New York City. Before joining PPFA, she served for nine years as the Chief Operating Officer at Planned Parenthood in San Francisco. Ms. Meredith launched her business career in corporate America at AT&T for 10 years.

Ms. Meredith currently serves on the Board of Directors of the California Family Health Council, awarding grants of \$20 million annually for women's health; the George Lucas Education Foundation - Edutopia, illuminating and showcasing what works in education; the Silicon Valley Social Venture Fund (SV2), serving as board liaison to grantee Asylum Access working on global refugee rights; and the Yintai Research Center of Philanthropy and Social Impact at the Guanghua School of Management at Peking University, teaching skills for future nonprofit and foundation leaders.

Ms. Meredith graduated from Stanford University with a B.A. in Economics. In 2005, she received a fellowship to the Stanford Graduate School of Business Executive Program for Nonprofit Leaders.

モデレーター



井上 英之

(慶應義塾大学 特別招聘准教授/INNO-Lab International 共同代表)

2001年よりNPO法人ETICにて、日本初のソーシャルベンチャー向けプランコンテスト「STYLE」を開催するなど、社会起業家の育成・輩出と市場の創出に取り組む。03年、ソーシャルベンチャー・パートナーズ(SVP)東京を設立。05年より、慶応大学SFCにて「社会起業論」などの、実務と理論を合わせた授業群を開発。09年、世界経済フォーラム「Young

Global Leader」に選出。現在、慶應義塾大学 特別招聘准教授。12~14年、日本財団国際フェローとして、米国スタンフォード大学(Center for Philanthropy and Civil Society)、クレアモント大学院大学に客員研究員として滞在した。近年は、マインドフルネスとソーシャルイノベーションを組み合わせたリーダーシップ開発に取り組む。

パネリスト



鵜尾 雅隆

(日本ファンドレイジング協会 代表理事)

G8社会インパクト投資タスクフォース日本諮問委員会副委員長、社会的投資促進フォーラムメンバー、日本ボランティアコーディネーター協会副代表理事、(株)ファンドレックス代表取締役なども務める。JICA、外務省、米国NPOなどを経て2008年NPO向け戦略コンサルティング企業(株)ファンドレックス創業。2009年、寄付10兆円時代の実現をめざし、日本ファンドレイジング協会を創設し、2012年から現職。認定ファンドレイザー資格の創設、アジア最大のファンドレイジングの祭典「ファンドレイジング日本」の開催や寄付白書・社会投資市場形成に向けたロードマップの

発行、子供向けの寄付教育の全国展開など、寄付・社会的投資促進への取り組みなどを進める。2004年米国ケース大学Mandel Center for Nonprofit Organizationsにて非営利組織管理修士取得。同年、インディアナ大学The Fundraising School修了。著書に「ファンドレイジングが社会を変える」NPO実践マネジメント入門(共著)「Global Fundraising(共著)」寄付白書(共著)「社会投資市場形成に向けたロードマップ(共著)」などがある。

パネリスト



佐々木 健介

(NPO法人ETIC インキュベーション事業部 マネージャー)

2002年より、社会的課題を解決しイノベーションを起していく「社会起業家」のスタートアップを支援する「NEC社会起業塾(現 社会起業塾イニシアティブ)」を担当。経済産業省「新事業創出のための目利き・支援人材育成等事業」の支援者、日本財団/西武信金による「西武ソーシャルビジネス成長応援融資」の企画運営協力等を通じて、これまでに約60社の

ソーシャルベンチャー支援に携わる。

パネリスト



工藤 七子

(日本財団 ソーシャルイノベーション本部 社会的投資推進室)

商社での投資事業、アキュメンファンドパキスタン事務所での住宅事業に従事した後、2011年に日本財団に入社。日本ベンチャー・フィナンソロピー基金、G8社会的インパクト投資タスクフォースの事務局運営、ソーシャル・インパクト・ボンド事業を担当。米国クラーク大学国際開発学修士。<http://www.nippon-foundation.or.jp/>

パネリスト



西村 勇哉

(NPO法人ミラツク代表理事)

大阪大学大学院にて人間科学(Human Science)の修士を取得。人材育成系ベンチャー企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。

Emerging Future we already have(既に在る未来を手にする)をテーマに、全国の社会起業家、企業、NPO、行政、大学など異なる立場の人たちが加わる、セクターを超えたソーシャルイノベーションのプラットフォームづくりと、大手企業を中心に社会課題を基盤とした新規事業開発に取り組む。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 非常勤講師、大阪大学大学院国際公共政策研究科招聘教員

モデレーター



星野 俊也

(大阪大学理事・副学長)

昭和34年群馬県出身。東京大大学院修了、国際公共政策博士(大阪大学)。国連日本政府代表部公使参事官、大阪大学国際公共政策研究科教授、同研究科長などを歴任後、平成27年8月より現職。稲盛フェロー第9期生。

研究テーマは国際関係の理論と実践。特に国連外交(安保理、平和維持・平和構築、復興・開発)、アジア太平洋の国際関係、日米関係、人間の安全保障、保護する責任、インテリジェンス分析。

パネリスト



奥田 晴久

(パナソニック株式会社ブランドコミュニケーション本部)

1997年入社、(営業、オリンピックスポーツマーケティングの部署を経て現在の)CSR・社会文化部にて新興国・途上国への社会貢献プログラムの企画と運営を推進。無電化地域にパナソニックのソーラーランタンを寄贈する「ソーラーランタン10万台プロジェクト」では、インド、インドネシアを担当。ランタンの寄贈プログラムと共に新興国のNPO/NGO

へ社員を派遣するプロボノプログラムや新興国・途上国の社会課題の理解からビジネスプランを考えるワークショップ等の企画、運営を推進。

パネリスト



松島 由佳

(クロスフィールズ共同創業者・副代表)

東京大学経済学部卒業。在学中、カンボジアの児童買春問題の解決を目指すNPO法人かものはしプロジェクトのスタッフとして勤務し、現地視察型のプログラム開発などに従事。卒業後はボストン・コンサルティング・グループに勤務。2011年、クロスフィールズを創業。世界経済フォーラム(ダボス会議)のGlobal Shapers Community(GSC)に

2015年より選出。

パネリスト



中村 俊裕

(コベルニク共同創始者兼CEO、大阪大学国際公共政策研究科招へい准教授)

ラストマイルの人々にシンプルで革新的なテクノロジーを届けるため、2009年コベルニクを共同創設しました。コベルニク創設以前は国連に勤務し、東ティモール、インドネシア、シエラレオネ、アメリカ、スイスを拠点としてガバナンス改革、平和構築、自然災害後の復興などに従事しました。国連の前職はマッキンゼー東京支社で経営コンサルタントとして活躍。京都大学法学部卒業、英国ロンドン経済政治学院で比較政治学修士号取得、また大阪大学大学院国際公共政策研究科で招へい准教授も務めています。2012年には世界経済会議(ダボス会議)のヤング・グローバル・リーダーに選出されました。また、同会議の持続可能な開発における「グローバル・アジェンダ委員会2014-2016」における「持続可能な開発」委員も勤めています。さらに2014年には、ユニセフの「インドネシア・イノベーション・ラボ」のアドバイザーとなりました。著書に「世界を巻き込む。」。

ごあいさつ

星野 俊也 理事・副学長（グローバル連携担当）



革新的な発想で、適正な技術で、そして熱い心をもったみんなの知恵と姿勢と実践で社会の課題の発見と解決を進め、よりよい未来を切り拓こうとする「ソーシャル・イノベーション」。大阪大学では、新たな「知の統合学修」の一環として、大学院国際公共政策研究科の稲盛財団寄附講座「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション」プログラムと学内の関連事業をつなぎ、さらに本分野の代表的なジャーナルである『スタンフォード・ソーシャル・イノベーション・レビュー（SSIR）』誌を展開するスタンフォード大学の「フィランソロピーと市民社会センター（STANFORD PACS）」との共催で、「ソーシャル・イノベーションが拓く未来」をテーマにシンポジウムを開催します。

本イベントでは、SSIR誌からのインスピレーションや日本の先駆的なソーシャル・イノベーションのリーダーたちとの対話や大阪大学としての取組の紹介を通じ、よりよい未来の共生社会に向けたプラットフォームの形成とネットワーキングの促進を目指します。奮ってご参加ください。

アクセス

大阪大学 豊中キャンパス

大阪府豊中市待兼山町 1-3

【最寄り駅】

阪急宝塚線「石橋」駅もしくは大阪モノレール「柴原」駅

